地水火風

牧野恒一

福島県沖地震と津波警報

先日、福島県沖を震源とするM7・3の大きな地震があり、太平洋沿岸一帯に津波警報が出た。これを伝えるNHKの放送は切迫感にあふれ、この放送を聴いて高台に避難した人も多かったと聞く。だが、この放送を聴きながら、東京湾岸一帯に津波警報が出たとき、どうなるか、どうすべきか、どうしておくべきか、大いに考えさせられた。この機会に、このときに考えたことを整理しておきたい。

福島県沖を震源とする地震

11月22日早朝、福島県沖を震源とするM7・3の地震が発生した。最大震度は福島県内を中心に震度5弱だったが、首都圏でも海溝型地震を思わせる長い嫌な揺れを体感し、2011年東日本太平洋沖地震が頭をよぎった。地震の大きさはそれほどでもなかったが、重軽傷者が4都県で20人、火災も1件発生するなど、多少の被害が出ている。特筆すべきは津波で、震源の深さが10 ㎞ と浅かったため、太平洋沿岸一帯に津波警報と津波注意報が発令され、仙台港で高さ1・4mの津波が観測されたのをはじめ、各地に高さ数十センチクラスの津波が押し寄せた。津波警報を受け、青森県から千葉県まで6県の26市町村が「避難指示」を、4県25市町村がより緩やかな「避難勧告」を発令し、対象は最大時に51万人に上った。

切迫感のある放送

この日、津波からの避難を呼びかけるNHKの放送は、きわめて切迫感があった。私は運転中だったのでラジオで聞いていたのだが、安全なところを走っているとわかっていても、思わず「避難しなくていいのかな」と思ってしまうほどの迫力だった。東日本大震災で津波に襲われた経験の生々しい人たちは、これら避難を呼びかける放送を見聞きして、取るものもとりあえず高台に逃げた人が多かったと報道されている。東日本大震災のあと、NHKなどでは、読み上げ文の検討や訓練をよほど熱心に行ったに違いない。その成果が、この日の放送と、津波危険地域に住む人々の行動になって現れたということで、立派な成果を上げたと言えるだろう。

東京湾岸一帯に津波警報が発令されたら

房総沖や神奈川・静岡沖で大地震が発生し、東京湾岸一帯に津波警報が発令された時、首都圏湾岸部にいる我々はどうしたらよいだろうか。

あの大川小学校（先月の本紙拙稿参照）は、海から4㎞の位置にあり、津波浸水地域には指定されておらず、むしろ避難所として指定されていた。東京に当てはめると、竹芝桟橋から4 ㎞ と言えば、丸ノ内界隈はもちろん、神田、四谷、渋谷を結ぶあたりまで含まれる。この中には東京の中枢部はスッポリ入ってしまう。

東京湾沿岸一帯に津波警報が出れば、先日と同じように「東京湾沿岸一帯に津波警報が発令されました。津波による被害が発生します。沿岸部や川沿いにいる人はただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。津波は繰り返し襲ってきます。警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください」と、切迫感のあるアナウンスが繰り返されるはずだ。このような放送に接した時、これら東京中枢部に住んだり勤務したりしている人たちはどう行動すればよいのだろうか。ビルに隠れているが、埋め立て地を除けば東京にも「高台」は結構ある。そんな「高台」を探して避難するか3階以上のビルに逃げ込むのだろうか。それにしても、キャパシティは大丈夫か、などと心配になる。

避難指示と避難勧告

津波警報や津波注意報が発令され、津波の高さや到達時刻の予報が出ると、自治体は具体的な地名を指定して「避難指示」や「避難勧告」を出すことになっている。ラジオでは細かい地名を全部伝えることは難しそうだが、テレビなら避難指示等の出た区域を地図上に表示して情報を伝えることができる。ネットでも同じような情報は伝えられるはずだが、アクセスが殺到して情報取得が困難になる可能性が高い。住民としては、津波警報を音声で聞いたら、避難など具体的な行動をどうするかについては、テレビで自分のいるところに避難指示等が出ているかどうかを確認し、それより少しだけ安全側に判断する、というのが良さそうだ。

できるだけ早い時点で的確に避難指示や避難勧告を出すことが自治体の極めて重要な任務になる。分秒を争う仕事なので状況に応じた訓練を繰り返すことが不可欠だが、自治体担当者の皆さん、大丈夫でしょうね。

津波浸水区域と住民の対応

津波警報等が発令されたときに、避難指示や避難勧告を出すには、津波浸水区域予想図を見て行うことになる。避難指示や避難勧告を出す区域を、予め予想津波高さに対応して具体的に地図上に表示しておけば、津波警報等の内容に応じて機械的に判断できるので即座に対応できる。

東京湾岸の三都県では、東日本大震災のあと、「想定外」がないよう、津波浸水予想区域図等を厳しい目で見直しているので、かなり安全側の判断がなされると期待できそうだ。

住民としては、自分や家族の住まいや勤め先があるところがどの程度の津波危険があるのか、この津波浸水予想区域図で調べておき、いざという時どうするか考え、家族で話し合っておくことが必要だ。

ちなみに東京の場合は、「南海トラフ巨大地震等による東京の被害想定（平成25年）」というHPに詳しい情報が載っている。島しょ部には高さ30mを超える津波が来襲して大きな被害が出ると予想されているが、東京23区に来襲する津波はせいぜい高さ2・5m程度のため、防潮堤と水門が機能すれば、ほとんど浸水しないと予想されている。本当かな、と心配になるが、相当安全側に予測しているはずなので、信用してもよいのではなかろうか。

我が家は東京湾奥の沿岸地区にあるので津波についてはナーバスになっており、東日本大震災の後に行われた国、千葉県、神奈川県の津波の新たな被害想定には目をこらしてきた。千葉県のHPに「千葉県津波浸水予測図」というのがあり、市町村の細かい区域ごとに津波浸水予測が載っている。これを見る限り、最も厳しい予想でも、我が家のあるところは浸水しないことになっている。我が家はRC造3階建てメゾネット型マンションの2階と3階なので、「津波警報が出たら、すぐに3階に上がれる準備をしつつ、テレビやラジオで情報収集する」という対応で良いのではないかと家族で話し合っている。